

## 誰もが安心して暮らせる安全なまちづくり



# 子どもたちにとって 楽しく安全な まちづくりに向けて



千葉大学名誉教授  
なかむら おさむ  
**中村 攻** さん

### ● 子どもを犯罪から守る取り組みについて

戦後最高に達した犯罪件数も、ここ数年、関係方面のさまざまな取り組みの成果もあって、3割前後の減少を見せ、一時の右上がり現象に歯止めがかかっている。

こうした傾向を反映して、一時、燎原の火のように全国津々浦々に広がった「子どもを犯罪の危険から守る活動」も、さまざまな様相の変化を見せている。

ある地域では、活動そのものが自然消滅したり、小休止している。取り組みを縮小して続けている地域もある。活動そのものは続けていても、マンネリ化に陥っている地域も少なくない。

しかし、犯罪者を生み出す社会的要因は、決して軽減されたわけではない。むしろ、格差社会の拡大で個人から社会までストレスは蔓延し、犯罪者が生み出される社会的土壌は広がり、強まりすらしているのである。

犯罪として顕在化するのを封じ込め、押え込んでいるというのが現状の正確な見方である。

### ● 欧米先進国における治安の現状

欧米の先進国では、犯罪の発生件数もわが国の数倍であり、事態はもっと深刻である。

これらの国では、封じ込め策も極めて強烈であり、これらの施策が、社会の自由で民主的な発展の前に立ちはだかっているというのが現状である。監視カメラがまちの隅々までを警戒し、人びとの生活は終日、社会的監視下におかれ

ている。公共的施設はロックされ、自由な利用は大きく制限されている。

公園では、子どもたちがフェンスで囲われた空間で遊ぶ光景が広がっている。まちそのものをフェンスで囲い、居住者以外の自由な往来を許さない「ゲートッドシティ」と言われるまちづくりも珍しくない。性犯罪者を刑期後も警察等で監視するだけでなく、地域社会から排除していく動きもある。

こうした諸施策は、望んで取り入れられているものではない。常に人権や自由や民主主義の観点から懸念や批判を浴びながらも、深刻な犯罪状況からやむを得ず取り入れられているといえよう。

### ● 日本の現状に合った創造的な取り組みを

わが国でも、封じ込め策の効果を急ぐあまり、こうした欧米の施策を、状況の違いを無視して、無批判に導入する傾向が強まりつつある。

しかし、待ってほしい。犯罪の危険が高くなってきているとはいえ、わが国の現状は欧米の数分の1なのである。数倍も厳しい状況に直面して、やむを得ず取り入れられている施策は、先進的な施策ではなく、反面教師としてとらえる姿勢が必要である。犯罪の発生要因を取り除くことなく、封じ込め策に多くを頼っていくと、社会は劣化する。

「子どもを犯罪の危険から守る活動」には、欧米の施策の物真似ではなく、わが国の現状に合った創造的な取り組みの展開が求められているのである。

### ● 「子どもたちの安全」は地域社会の役目

活動に求められている新しい視点は、事件に触発されて発生した活動を、単純な防犯活動から、子どもたちにとって楽しく安全なまちづくり活動へと発展昇華させていくことである。

私たちの地域を、子どもたちにとって安全で楽しい社会へとつくり変えていくまちづくりの活動へと、日常化・総合化していくことである。

子どもたちは、自由にのびのびと、安全に暮らしていく権利をもっている。それを保障するのは大人と地域社会の役目とする視点が大切だ。

わが国では、学校も公園も通学路もすべて犯罪等起こらないという前提でつくられてきた。「犯罪が起こるかもしれない」という視点で地域空間を見直し、改善に取り組むことが必要である。

また、昼間、地域の大人の姿が見えない現状には改善が必要である。高齢者が楽しみながら地域に出ている環境づくりや、地域の商店や町工場や農業を元気にしていくことが大切である。交番だけが子どもを守ってきたのではない。活動の中心は地域住民である。しかし、財源や権限の面では行政や警察の協力は不可欠である。両者の成熟した信頼関係も必要である。

## 事例1

# 母親クラブによる 公園の安全・防犯 点検

谷田部母親クラブ【茨城県つくば市】

母親クラブは子どもたちの健全な育成を願って、世代間の交流活動、遊び場や遊具の点検、交通安全指導、防犯パトロールなどを行っているボランティアグループである。

その全国組織である全国地域活動連絡協議会「みらい子育てネット（母親クラブ）」の呼び掛けにより、7月を「公園の安全月間」として子どもたちが夏休みに入る前を中心に、全国のそれぞれの地域で、「遊具の安全点検」（平成15年度から）と、「公園の防犯点検」（平成18年度から）を実施している。

## 地域の公園の隅々までを細かくチェック

茨城県つくば市の谷田部母親クラブでは、地域のなかの「はなれ羽成公園」において、千葉大学名誉教授・中村 攻氏の指導と、つくば市都市施設課公園管理係の職員の立会いのもとで、母親クラブのメンバーによる「公園の防犯点検」と「遊具の安全点検」活動を行った。

活動では、子どもを遊ばせながら公園内を巡回し、木製デッキやベンチの腐食具合、遊具の老朽化や変形などの安全面でのチェックや、植栽や築山などの地形の起伏により生じる死角のチェック、犯罪被害に遭いやすい公衆トイレの状況などを点検し、点検マップに現在の状況と改善要望等を記入した。

参加した母親たちは、子どもが普段遊んでいる身近な公園だけに、点検活動に積極的で、改善や修理を要望したところが、次の年の改善状況はどうなっているかについての関心も高い。

## 行政への働き掛けによる官民協働の活動

つくば市内17の母親クラブでは、茨城県地域活動連絡協議会（会長・根津久美子）の調整のもとで、毎年、7月から9月まで市内100か所の公園点検を行っている。つくば市都市施設課公園管理係からすべての公園のリストと平面図を提



木製デッキの腐食具合をチェック



公衆トイレの状況を点検

出してもらい、それをもとに、一つひとつの公園で各地域の母親クラブの会員たちが、子どもをもつ親の視点で点検し、公園の安全面や防犯面の現状、過去の点検により把握された不具合や危険性、これまでの改善内容を一覧化し、市役所に報告書と要望書を提出している。

こうした活動を市内のすべての母親クラブが行い、行政に働き掛けている。行政側の担当が替わったとしても、申し送り事項として継続され、着実に成果を生んできている。

## 子どもの安全を見守る環境づくりを願って

谷田部母親クラブは平成6（1994）年に誕生した。母親同士が週に1回のペースで、自主的に企画し、そば打ち体験やヨガ教室、バレーボールを楽しむ活動をしている。その他にも、児童館のお祭りや読み聞かせなどに、母親たちがボランティアで参加している。

公園の遊具の安全点検と防犯点検活動に関しては、子どもを守ることは母親クラブの役割の一つとして、会員たちのコンセンサスも得やすかったという。

公園の安全確保のためには、地域の自治会をはじめ、さまざまな住民や団体がかわることが望まれる。3年前の防犯点検の際には、公園の近所の自治会の班長にも飛び込みで声を掛け、参加してもらうなど、地域住民との協働のための接点づくりにも努めている。しかしながら、母親クラブとして本来の活動を行いながら、そうした関係をつくっていくことは容易ではないという。

母親クラブでは、今後も「公園の防犯点検」や「遊具の安全点検」を通して、子どもたちが安心して遊ぶことのできる公園の維持をめざしている。そして、「まちの子は、みんなわが子」を合い言葉に、かつての大人たちが、自分の子と他人の子の分け隔てなく、注意をしたり、叱ったりしていた地域の力を、もう一度取り戻し、多くの人たちの目によって、子どもたちの安全を見守ることのできる環境づくりを願っている。



谷田部母親クラブ 会長  
みやた さちこ  
宮田 幸子 さん

事例へのコメント

## 公園での点検

千葉大学名誉教授 **中村 攻** さん

### 1. 公園の死角について

犯罪防止の観点からは、死角が生じないような管理が必要とされる。公園の樹木は、植えられた当時は視野が確保されていても、成長して死角となる場合があるので、定期的な点検と改善が必要である。

近年では、公園管理が行政から外注化され、柔軟な対応が難しい場合も見られるようになってきている。また、必ずしも子どもの安全の視点から管理されていないため、点検することが大事である。

改修は予算がかかることもあるので、普段から考えておき、行政の動きをとらえてタイミングよく要望することが大事である。

### 2. 日常的に人の集まるしかけについて

築山のような起伏など、改修が難しい場合もある。また、



視野を確保したとしても、子どもを見守る大人の視線がなければ意味がない。大人が日常的に公園を利用するしかけをつくることが重要である。

近年では、グループによる公園での花壇づくりなどに、行政が柔軟に認めるケースも増えてきているので、そうした機会づくりも考えられる。

### 3. 利用状況調査(時間帯や人数)

公園の利用状況には時間帯や季節による変化もあるので、よくその公園を利用する母親クラブのメンバーや近所の住民にも参加してもらったり、普段から近所にいる住民の意見や子どもの意見を聞くことも重要である。

## 事例 2

# 犯罪から 地域の子どもたちを 守る取り組み

「子どもを犯罪から守る」  
まちづくり活動

青少年育成新小岩地区委員会【東京都葛飾区】

葛飾区では、平成 14 (2002) 年から、「安心・安全なまち」をめざし、「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動を推進している（現在では 9 地区で推進）。新小岩地区では、平成 16 (2004) 年から取り組んでいる。

活動は、地域の公園や道路、商店街、駅、駐車場、集合住宅など、子どもが危険に遭いやすい場所を探り、改善対策を考え、推進するものである。

葛飾区では、地域の青少年の健やかな育成を目的に、自治町会、地域まちづくり協議会、青少年委員、保護司、民生委員児童委員、小中学校 PTA、学校など、地域の関係団体による青少年育成地区委員会が設けられており、PTA とともにこの活動を担っている。

支援にかかわる葛飾区教育委員会生涯学習課でも、地域主体の活動が効果的かつ円滑に進むように、取り組み方法についての講習会（全 6 回）の開催、個々の地域の取り組み

についてのアドバイス、必要物品の提供などを行っている。

### 地域の実態を探り、問題を把握して改善する

葛飾区での「子どもを犯罪から守る」まちづくり活動は、まず、子どもたちが実際に、いつ、どこで、どのような危ない目に遭っているかのアンケートを実施し、地域の実態を把握し、「犯罪危険地図」をつくることから始まる。

子どもたちへアンケートを配布する際にも、大きな被害に遭った子どもをさらに傷つけないよう、アンケートに答えたくない子どもの意向に配慮したり、プライバシーの保護に細心の注意を払っている。

次に、アンケートと「犯罪危険地図」をもとに、地域住民や推進団体のメンバーがグループを組んで地域を巡回し、



子どもたちのペインティングによって生まれ変わった公園

危険な場所を検証する。そして、その一つひとつについて、なぜ、ここが危ないのか、どうしたら安全になるのかという安全対策を検討し、いつまでに誰が取り組むのか、を明確にした「環境改善計画」をつくる。

そして、「環境改善計画」を実行するために、行政の担当者や警察などと話し合う機会をもつ。そうして、「環境改善計画」に盛り込まれた改善項目について、時間をかけて実現していく。

### 改善箇所の成果を振り返る見学会を実施

本年7月に、新小岩地区で、「子どもを犯罪から守る」活動の一環として、PTA役員や活動に取り組む予定の団体の



休憩用のベンチが置かれた商店街を視察

リーダーを対象に「改善箇所を見に行く会」が実施された。これまでの取り組みによって実現した改善例を見学し、活動の意義を再確認するとともに、取り組みを予定している団体や支援者の学習が目的である。

午前中は、子どもたちから募ったアンケートの集計と「犯罪危険地図」作成に関する体験実習を行った。

午後からは、公園や道路、

商店街など、新小岩地区が取り組んできた改善例の見学会を行った。参加者たちは、以前は汚れや落書きにより、大人でも近寄りにくかった公園が、地域と学校、区とが連携し、子どもたちも参加して、遊具やトイレ、ベンチにペインティングすることによって落書きが消え、安全になった実例や、人通りが増えることで地域を見守る視線が増えることにも期待して、地域の高齢者が利用しやすいよう休憩ベンチが設置された商店街など、まちを巡回し、取り組みの成果を体感した。

子どもたちがペインティングした公園は不思議と、その後も落書きされることが少ないという。

見学の後の振り返りでは、参加者から「公園のペインティングが参考になった」、「道路や住宅地を歩いてみることで、地域の状況がよく分かった」などの声が寄せられ、活動への関心の高さがうかがわれた。

葛飾区では今後も、さまざまな団体や機関が話し合いや協力のもとで、「子どもを犯罪から守る」活動を継続し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進していく方針である。

葛飾区教育委員会 生涯学習課  
区民学習推進係長

はやし ゆきお  
林 由紀夫 さん



### 事例へのコメント

## 犯罪から子どもを守るポイント

千葉大学名誉教授 中村 攻 さん

### 1. 昼間の地域で大人の姿が見える工夫を

安全なまちづくりを考えるうえで、昼間、大人の姿が見えるまちをどうつくるかが課題である。これには、比較的地域にいることの多い高齢者の力を借りることを考えたい。

その際、それぞれの市民が自分の関心や欲求に基づいてまちに出てくるしかけが重要である。葛飾区では、公園に健康のための器具を設置したところ、体力維持のために高齢者が日常的に訪れるようになった。

防犯カメラをつけたり、パトロールをしたりというのではなく、まちの人が楽しんで自然に地域に出てくるような、「防犯」と言わなくても安全なまちをつくることを目的とする姿である。

### 2. 子どもを育てる大人のネットワークづくり

現在は、地域の大人のネットワークが弱っている。子育てするようになると地域とかわる必要が出てくる。子どもをPTAや町内会に見守ってもらったことから自分

も活動に参加するようになったりする。

また、地域の団体間の連携も重要である。例えば、PTAは子どもや親の視点から安全をチェックでき、町内会は行政との強いつながりをもっている。それらの団体同士が、子どもを地域で育てていくということを通じて、互いに結びつき、協力し合って地域を元気にしていくことが大事である。

### 3. 住民と行政の協力関係の強化

住民と行政との関係は、最初は立場の違いなどから、話し合いがスムーズに行かない場合がある。しかし、子どもを犯罪から守っていきたいという想いは、住民も行政も持っている。その共通点を大事にしながら、お互いが相手を理解し合い、協力・協働関係を結んでいくことが、子どもを犯罪から守るまちづくりにつながる。

